

発行日 2024年11月5日

環境経営レポート

【レポートの対象期間：2023年10月～2024年9月】

株式会社 佐藤工業所



環境省
エコアクション21
認証番号0012557



FLASHBOY LED トリプルライト



梯子昇降装置SSA-II



NIGHT SCAN CHIEF



FLASHBOY POLE



FLASHBOY R



その他の製品

《目次》

1. 環境経営方針	P-1
2. 事業活動の規模	P-2
3. EA21推進体制	P-3
4. 環境目標とその実績	P-4
5. 環境活動の取組計画と評価	P-5
6. 環境関連法規制の遵守	P-6
7. 代表者による全体の評価と見直し・指示	P-6

1. 環境経営方針

〔経営理念〕

社会に奉仕し、ともに働く者の生きがいと幸せを求め続ける

〔社心〕

誠意、創意、熱意

〔基本理念〕

(株)佐藤工業所は、消防機器、防災機器を製造・販売することにより社会貢献を果たしている。

我々の活動は経営目標を環境保全と並立させて達成するもので、以下のように目的／目標の枠組を与える。

- (1) 我々の活動、製品、サービスに係る関連法規制、
その他当社が同意する要求事項を順守する。
- (2) 汚染を予防するために次の事項を重点におく。
 - ・ 廃棄物の削減
 - ・ 生産効率の向上, 業務効率の向上
 - ・ 資源及びエネルギーの有効利用
 - ・ 有害物質の削減, 廃止

以上、実現のため、環境方針、環境目的／目標に従業員及び組織のために働く人に周知徹底し、システムを継続的に改善する。なお、地域との共生にもつとめる。

制定日 2023/5/1

(株)佐藤工業所
代表取締役 片山 高雄

2. 事業活動の規模

1. 事業所及び代表者名

株式会社 佐藤工業所
代表取締役社長 片山 高雄

2. 所在地

本社・工場 〒379-2134 群馬県前橋市力丸町487-5
大阪営業所 〒544-0012 大阪市生野区巽西3-12-30関西ハイツ 2号

3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者 : 代表取締役社長 片山 高雄
環境管理責任者 : 取締役 藺 勝志
TEL : 027-265-2500
FAX : 027-265-2536

4. 対象範囲

株式会社 佐藤工業所 本社・工場・大阪営業所 全組織全活動

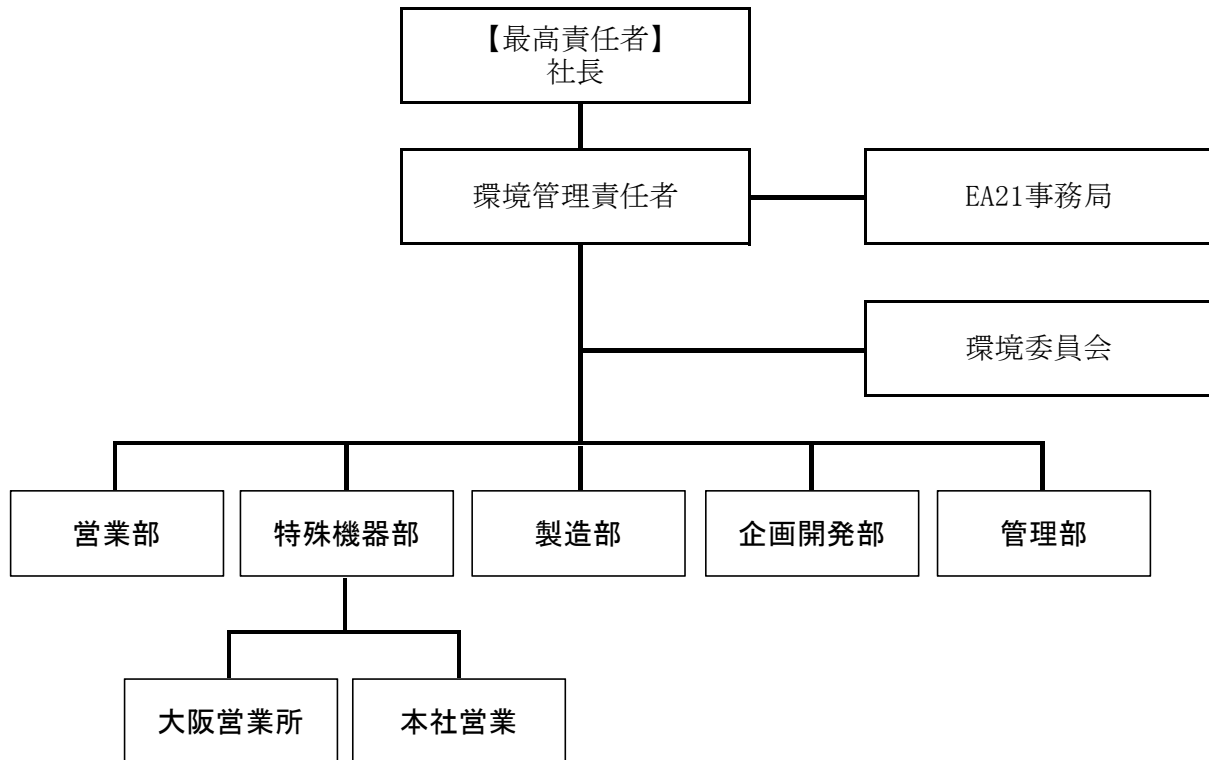
5. 事業の内容

消防関連機器等の開発・設計・製造・販売

6. 事業規模

活動規模	単位	2023	2024
従業員数	人	23	23
延べ床面積	m ²	1, 575. 39	1, 575. 39

3. EA21推進体制



職名	役割、責任、権限
最高責任者	①環境方針の設定、維持、見直し ②EA21システムの実施に必要な経営資源（人材、資金、設備など）を準備 ③環境管理責任者の任命 ④EA21システム全体の評価と見直しの指示 ⑤環境経営レポートの承認
環境管理責任者	①環境方針の設定、維持、見直しに関する最高責任者への補佐 ②EA21システムの構築、実施、管理 ③環境目標、環境活動計画の作成、維持の承認、指示 ④EA21の取組結果を最高責任者へ報告 ⑤環境経営レポートの作成
EA21事務局	①EA21システム実施の事務局機能と文書類の作成と管理
環境委員会	①社長、環境管理責任者、実務担当者、各部リーダーで構成 ②環境目標、環境活動計画の提案、審議、決定、承認
各部門リーダー	①所管業務に関するEA21活動全般の責任と権限
全従業員	①環境方針を守る ②関連する手順を守る ③役割・責任を自覚し、それを果たす

4. 環境目標とその実績

当社に於ける過去3年間の環境負荷実績を把握し、
2024年度の目標を下記の通り定め活動を開始しました。

1. 環境目標とその実績

＊購入電力の排出係数は、0.595kg^{CO2}/kWh平成29年オリックスを使用しています。

＊2024年の実績は、2023年10月～2024年9月の12ヶ月のデータです。

環境目標	基準値 2021年度～ 2023年度平 均	今年度目標 (2024年度)			中長期目標	
		2023年10月～2024年9月			2025年	2026年
	実績	目標	目標値	実績		
①二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)	85025.47	基準値に対して2%減	83324.96	85870.69 (0.99%増)	基準値に対して2%減	24年実績を考慮し策定する
②廃棄物の削減 (kg)	3354	基準値に対して2%減	3287.25	2145.00 (36.05%減)	基準値に対して2%減	24年実績を考慮し策定する
③水資源投入量の削減 (m ³)	209	基準値に対して2%減	205.15	200.00 (4.46%減)	基準値に対して2%減	24年実績を考慮し策定する
④化学物質取扱及び管理の徹底		管理手順の順守			管理手順の順守	24年実績を考慮し策定する
⑤省エネ型LED投光器の拡販 (NSC、FB、FB-P、FB-Rの販売台数)	786	基準値に対して2%増	796	694 (11.67%減)	基準値に対して2%増	24年実績を考慮し策定する

2. 主な環境負荷実績

環境への負荷	2020年10～9月 (3年前実績)	2021年10～9月 (2年前実績)	2022年10～9月 (1年前実績)	2023年10～9月 (環境活動レポート対象期間)
①二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂)	84430.45	85106.79	85,539.16	85,870.69
②一般廃棄物排出量 (kg)	1415	1365	1279	1331
③産業廃棄物排出量 (kg)	1856	1014	3134	814
④水資源投入量 (m ³)	227	206	195	200
⑤省エネ型LED投光器 (個)	873	707	777	694

5. 環境活動計画の取組みと評価

* 2023年10月～2024年9月の活動の取組みと評価をしております。

環境活動計画	環境活動計画の取組結果とその評価
1. 二酸化炭素排出量の削減 ①空調温度適正化・表示 ②照明・PC電源不要時のOFFの推進 ③エアコン清掃の実施 ④エコドライブ推進 ⑤社用車の点検・整備 ⑥電力、ガソリン量の集計	活動計画の項目は継続しており、工場内、事務所全てのエアコン清掃を年2回を徹底、工場1階のエアコンの点けるタイミングを1台ずつ時間を置き点け電気使用料の急激な増加を抑えている。結果、基準値に比べ全体で0.99%増と多少の増加で抑える事が出来た。抑えられた理由として今年の本社電気47100kg-CO2→約46060kg-CO2と約1040kg-CO2減少が上げられ、節電の効果やコト禍解消による外出の増加が良い結果となっていると考えられる。増加の原因として、今年3月下旬まで気温が低く、灯油ヒーターの使用率が多かった事（1327.72kg-CO2→1991.59kg-CO2）、ガソリンが今年は例年通り約24250kg-CO2、大阪は約31000kg-CO2と増加していないが、2022年がコト禍による営業車使用率減少により本社22100kg-CO2大阪約27700kg-CO2と少なく、基準値を下げた事、コト禍の解消によるデモ車の使用増による軽油の数値増（5171kg-CO2→5450kg-CO2）が上げられる。 次年度の取組内容 社内で出来る項目（電力使用、空調量等）は現状維持で進めていく。また、製造利益も回復傾向にある今、デモ車での売り込みも多くなると予想される為、引き続き低燃費運転を心がける。
2. 廃棄物排出量の削減 ①分別ルールの徹底 ②廃棄物置場の整備 ③産業廃棄物排出量の集計 ④裏紙使用ルールの徹底 ⑤目標達成状況・活動進捗状況確認	活動計画の項目は継続しており、ゴミの分別ルール、裏紙の仕様等社内全体で徹底している。排出量の集計結果として一般廃棄物は1.63%減（1353→1331kg）、産業廃棄物59%減少した（2001→814kg）。差産業廃棄物が半分以下に減少した理由として、混合が出なかった事（753kg→0kg）、木くずが従来の半分しか出なかった事（857kg→330kg）が上げられる。また、木くずはリサイクルしており、全体の4割リサイクルしている。 次年度の取組内容 活動計画の項目は今まで通り継続する。今後も産廃（混合）を年1回以下に抑えられるようにする。
3. 水資源投入量の削減 ①毎月のメータを確認する（漏水防止） ②節水表示 ③節水ノズルの取付 ④目標達成状況・活動進捗状況確認	活動計画の項目は継続しており、節水表示やノズル取付等常に行っている。結果として基準値と比べ水使用量は4.46%減少した（209㎡→200㎡）、また使用料は3年前と比べ約30㎡減少し2年前から200㎡前後を保っている。 次年度の取組内容 水使用量は基準値と比べ減少している為、このまま現状を維持し節水に努める。
4. 化学物質取扱及び管理の徹底 ①取扱商品（化学物質含有）の調査 ②購入量の把握 ③SDSの入手 ④取扱商品一覧表の作成 ⑤管理手順の策定（化学物質含有の場合）	購入量を把握することで、化学物質の量を引き続き把握した。また、新規購入するものがある場合は、化学物質の量を必ず確認した。 次年度の取組内容 購入量を把握することで、化学物質の量を引き続きは把握する。また、新規購入するものがある場合は、化学物質の量を必ず確認することを継続していく。
5. 省エネ型LED投光器の拡販 ①LED投光器の拡販活動 ③目標達成状況・活動進捗状況確認	省エネ型LED投光器の販売台数は基準値に比べ約11.7%減少した（786台→694台）。要因として、物価上昇によるライト本体の金額高騰が考えられる。現在新しく安価で同程度のライトの販売を始めており、今後の数値を注視していきたい。また、自社製品FBPの生産台数がLED投光器の中で安定して売れている。 次年度の取組内容 自社製品FBPを中心とした自社製品が顧客に届きやすい金額、使いやすさを突き詰めたマケチャージの検討を進めていく。

6. 環境関連法規制の遵守

1. 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	遵守事項	遵守状況
フロン排出抑制法	3カ月/1回簡易点検の実施	遵法
廃棄物処理法	委託基準（契約書・許可証）、 マニフェスト交付・保存及び交 付状況報告	遵法
消防法	少量貯蔵届出	遵法
PRTR法	SDSの管理	遵法

2. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2024年10月30日の環境関連法規遵守状況の確認において、環境関連法規への違反はありません。

産業廃棄物管理票交付状況報告書は2024年6月12日に提出済みです。

尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

7. 代表者による全体の評価と見直し・指示

弊社の取組んでいる電力の削減や二酸化炭素の削減は昨年に続き大きな変化はみられなかったと思います。CO2排出に関しては冬場の寒さ続きや夏の酷暑が影響した事により多少増加したと思われます。そうなる事を想定して対策し実行したのですが数字には繋がらなかったようです。また産業廃棄物や水資源に関しては多少ですが減少しました。これは各々が環境問題を念頭に置き向き合い意識し行動している成果だと思います。今後も継続をしていきたいと思っています。最後に省エネLED投光器の減少ですが近年ライバル会社が安価で良い商品を出している事、業界での絶対数が減少している事が要因で、弊社としてもそれに対応できるよう検討し取組む方向で進んでいます。今後の増加を期待していきたいと思っています。